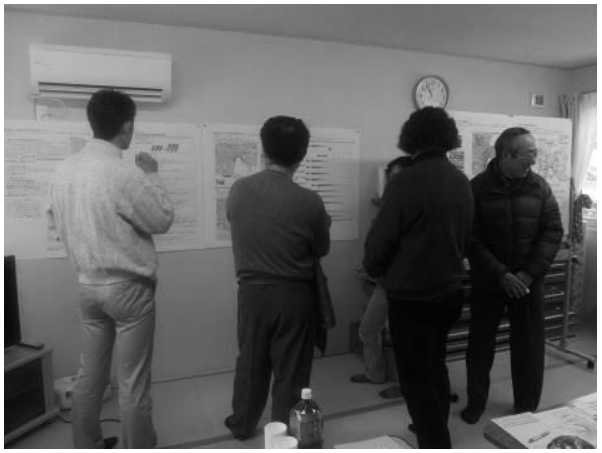

# 宮古市（地域班）

本田知也　王貫中　渡辺剛

# OUT　LINE

1.住民参加

2.教育

3.モニュメント

# 住民参加

| | 田老地区 | 鍬ヶ崎地区 | 愛宕・築地・光岸 | 中心市街地 | 藤原地区 | 磯鶏地区 | 高浜地区 | 金浜地区 | 津軽石地区 | 赤前地区 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第一回 | 125 | 184 | 78 | 77 | 78 | 61 | 67 | 88 | 84 | 95 |
| 第二回 | 294 | 142 | 45 | 44 | 58 | 51 | 35 | 53 | 64 | 77 |

＊地区復興まちづくりの会の人数比較

⇒復興に向けて地域住民の参加を促し、意見を取り入れる必要がある

**提案**

・復興状況をリアルタイムで見せる為のWEBサイトの確立と発信
・新聞や広告のみならず、他地域に赴いての講演会
・過去の被災地との連携
• 景観シュミレーションによる移転後の生活イメージの可視化。
• 移転候補地を訪問し環境点検や意見交換を図り、移転先での生活について関係者で認識を共有する。

# 景観３Ｄ

住民へ移転後の生活イメージを鮮明にするため、3Dを使用する

田老実景

3Dイメージ図

# 教育

今回の震災での被害の大きさの差の一因として「意識の差」が挙げられる。
三陸地方は1896年の明治三陸地震や、1933年の昭和三陸地震など過去に津波の被害を受けている。
過去の津波から教訓を生かしているで被害の差が生じてしまった。

例１）宮城県石巻市大川小学校と岩手県釜石市鵜住居小学校の被害の差
・大川小学校の児童数１０８人のうち助かったのは３４人だけ。鵜住居小学校は児童３５０人が全員無事。

例２）田老での消防隊の安否の差
・消防車の駐車の仕方によって生死を分けてしまった。

例３）同地区においての安否の差
・高台に家があることにより避難に遅れが生じた。
・防波堤付近で津波を見学し避難に遅れが生じた。

# 提案

軸としては3つ

（1）子供に対する教育
→学校主導で避難訓練や防災知識の教育を行う
ex)個人個人でハザードマップの作成、「防災（仮）」という授業を開講する。

（2）大人に対する教育
→自治体主導で避難訓練や防災知識や情報の発信を行う
ex)コミュニティ単位での避難訓練、メールマガジンの発信

（3）他地域の人々に対する教育
→行政が主導となり今回の地震・津波についての教訓と記憶を他地域に発信
ex)モニュメントの設置、情報館の設立

# モニュメント設立の理由

- 亡くなった人の記念
- 助け合う精神の宣伝
- 災難時の人間行動の反省
- 将来を向かう勇気

# モニュメントの展覧内容

過去記念

- 時間と場所（時計、地図モデル、新聞などの記録）災難について紹介
- 亡くなった人の残るもの、悲しいとき忘れない
- 助け合う場面とサバイバーの生きていく信仰

復興の現在

- 復興計画の進み
- 一人の生活回復

将来の教育

- 防災教育イベント
- 災害シミュレション
- インタネットのモニュメント